

20世紀の始まり（1901～1915）、その10

《日本初飛行と飛行場》

ライト兄弟の初飛行に遅れること9年の1910年（明治43）、日本は、外国から輸入した飛行機を使い、代々木練兵場（現代々木公園）において初飛行に成功しています。

日本初の飛行場は、1911年（明治44）に埼玉県に開設された所沢陸軍飛行場（現所沢記念公園）です。同年、奈良原三次（生没年：1877－1944年）は、自費で国産飛行機を製作し、所沢飛行場において初飛行に成功しました。（注1）

翌1912年（明治45）には、千葉県の稲毛海岸に民間飛行場が開設され（現稲岸公園）、民間パイロットの養成が始まりました。（注2）

1914年（大正3）第1次世界大戦が起こり、飛行機は、初期は偵察に使用されただけでしたが、途中から機関銃を乗せた戦闘機へ革新されます。

そして、1917年（大正6）、中島知久平（生没年：1884－1949年）が、群馬県に「飛行機研究所」を創設します。この研究所が、後に「中島飛行機株式会社」となり、群馬県内だけでなく、杉並区や武蔵野市にも製作所を持ち、東洋一の飛行機メーカーに成長していきます。（注3）

また、同年1917年（大正6）には、羽田飛行場（現東京国際空港）が建設され、日本飛行大学校が開設され、飛行訓練が行なわれます。

一方、日本は、帝都防衛構想を立て、1922年（大正11）、陸軍航空部隊の中核拠点として、立川飛行場を建設します。翌1923年（大正12）、関東大震災により、鉄道が壊滅的被害を受けたため、飛行機で物資を運べるようにと、羽田飛行場が拡張整備され、現在の空港の原形が出来上がりました。

注1：国産飛行機第1号とされるのは、日野熊蔵（生没年：1878－1965年）が、1910年に製作した日野式1号ですが、離陸することができず失敗に終わりました。その製作した場所は新宿区になります。最初に離陸できた国産飛行機第1号は、奈良原三次が製作した奈良原式2号機です。

注2：稲毛海岸飛行場は、1917年（大正6）年10月に台風による高潮により、壊滅的被害を受け、閉鎖されました。これに変わるように、羽田飛行場が登場してきます。

注3：「中島飛行機研究所」設立の2年後、名古屋では、三菱造船内燃部が本格的に航空機生産に乗り出します。この系譜が、現在の三菱重工の航空機部門を形成しています。

「中島飛行機株式会社」は、第2次世界大戦後、解体されますが、培われた技術は、平和な時代に花開き、直系の技術は「富士重工業株式会社」に、一部の技術は「日産自動車」に引き継がれていきました。なお、1925年（大正14）に建設された杉並区の製作所は、戦後、日産自動車工場となり、1938年（昭和13）に建設された武蔵野製作所は、米軍に接収されたあと返還されて、現在は、どちらも公園と住宅の用地に供されています。

写真は、①飛行関連の位置（Yahoo 地図に細見加筆）、②初の国産飛行機の奈良原式2号機（『雄飛：空の幕あけ所沢』掲載写真から）

①



②

